

卵のように見える部分がフクロムシ。フクロムシに寄生されたモクスガニは、行動を支配されてしまう。豊岡市にあるコウノトリ文化館では標本を展示しており、間近で観ることができる。



フクロムシに寄生された雄のモクスガニ。寄生されると生殖機能を失ってしまい、はさみ足もメスと変わらないくらい小さくなってしまいます。



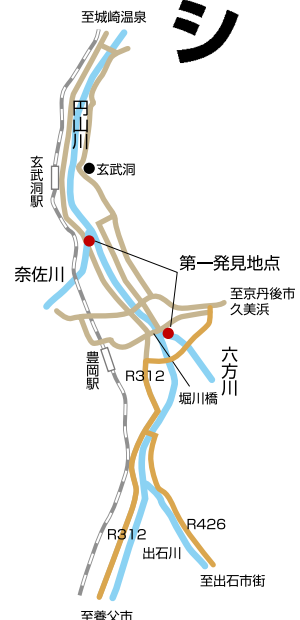
人々の生活を支え、稀少動植物の宝庫である円山川。母なる川には未知の生物たちが数多く生息している。世界に誇る大発見！

モクスガニラクロムシ

近畿地方有数の多様な自然環境を残す円山川。最近では生物学的にも貴重な生き物たちが見つかり、私たちに懐の深さを見せてくれます。中でも「モクスガニのフクロムシ」は、世界的な大発見となり、研究者を驚かせました。フクロムシとはカニなどの体の中に入り込む寄生虫のこと。外見からは想像しにくいですが、甲殻類でフジツボに近い仲間です。寄生されると、腹部から袋状の生殖器官を出すので、そう呼ばれています。世界で約150種以上が確認されていますが、その生態については謎が多く、未知の生物とされてきました。一見、お腹に卵が付いているのかと思われやすいですが、海に生息しているイワガニ、イソガニなどのフクロムシは普通に見ることができません。しかし、川(淡水)に生息しているものは珍しく、モクスガニのフクロムシ以外は例がありません。過去の事例と

しては、戦前の日本の論文で発表されたぐらい。近年、その存在自体が確認されておらず、幻の生き物でした。そのモクスガニのフクロムシが平成11年11月、コウノトリ市民研究所の稲葉一明研究員によって、なんと約19年ぶりに円山川で見つかったのです(※全国で唯一の生息地でしたが、今年1月に徳島県の勝浦川でも発見)。しかしながら、最初は反応が薄く、相手にされなかったといえます。日本では絶滅したと思われるだけに、研究者たちも半信半疑でした。あきらめかけていたその時、たまたまホームページを見た、フクロムシ研究の権威である熊本県立大学(当時)の高橋徹博士から連絡が入ります。稲葉研究員がメールで画像を送ると、紛れもなく本物であることが確認されました。高橋博士もずっと探し続けてきたモクスガニのフクロムシ。コペンハーゲン大学のルツェン博士とともに、7年

間、日本中の川を調査しましたが発見することができませんでした。「送られてきた写真は、長年探し求めていたあのフクロムシ。まるで化石から蘇った恐竜を見た思いだった」と、高橋博士は当時「アウコメント」しています。モクスガニのフクロムシは淡水で生活できること、体外部が他のものに比べて多いことなど非常に特徴があり、フクロムシの進化を探る重要な種として注目されています。平成15年には高橋博士とロシア科学アカデミーのリバコフ博士が、約3週間かけて円山川を調査。研究者によって、珍しい生態が次々に明らかになっています。生き物たちにとっても母なる川といえる円山川。世間に知られていない未知なる生き物がまだまだ生活しているかもしれません。協力：コウノトリ市民研究所 稲葉一明さん 国土交通省豊岡河川国道事務所

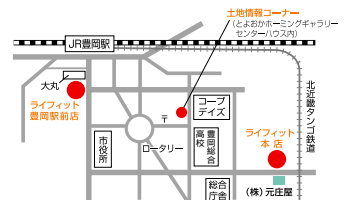


不動産のことならライフフィットへ!



アパート・マンション・貸家・土地・中古住宅・店舗の売買など、なんでもライフフィットへお気軽にご相談ください。●ご希望の物件情報を検索できます。●大好評!情報誌「ライフフィットタイムス」無料雑誌中!!

本店
豊岡市幸町4番4号
TEL.0796-24-2011
FAX.0796-24-2077
豊岡駅前店
豊岡市大手町1番27号
TEL.0796-26-6565
FAX.0796-26-6566



株式会社 ライフィット
(社)兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許
兵庫県知事(3)第650061号
ホームページ <http://www.lifit.jp>
E-mailアドレス info@lifit.jp

但馬街道

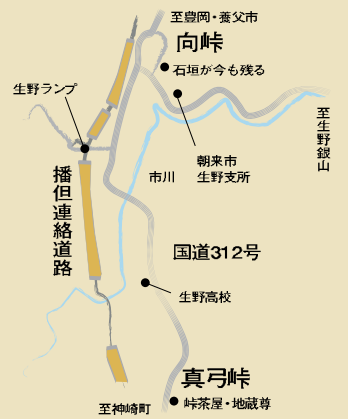


生野峠

いくのとうげ

【朝来市生野町～神崎町】

銀山の繁栄とともに歩んだ
生野峠、変遷の歴史。
但馬と播磨を結ぶ主要道として、
今も変わらず重要な役割を担う。



銀山とともに栄えた朝来市生野町。本格的な鉱山開発が行われるようになった江戸時代には、幕府の直轄地となり、数多くの人々が銀を目当てに出入りを繰り返しました。



生野峠は生野銀山の発展とともに改修された

の由来となるほどの急な山道だったといえます。天正5年(1577)の羽柴秀吉による但馬攻めでも、険しい山道、銀山道なので、周辺の村から人をかりだし、念入りに道作りを行ったと

子畑鉱山で採掘された鉱石を運ぶ輸送道路として、その重要性が高まりました。しかしながら、在来の両峠道は通行人を悩ます難路。生野銀山の発展には、道路の改築が不可欠でした。

記されています。これが現在の国道312号の生野峠道のはしりです。

真弓峠では明治6年、フランスから技師を招いての改修工事が起



真弓峠には古くから茶屋があり、最近まで営業していた。脇には行き倒れた人を供養した地藏尊が佇む。

もう一方の向峠も、山と山の鞍部を越える急な坂道でした。しかし、銀山が繁栄するとともに通行量も増え、宿場町のように賑わっていたそうです。

「生野鉱山畜馬車道(生野〜姫路・飾磨港)」と呼ばれるこの街道は、馬車専用道路とされ、明治28年の播但鉄道(現播但線)が開通するまで、播磨への産業道路として多大な貢献をしました。

現在も掘り下げ部分に積み残された石垣が残り、往時の様子を伝えています。

当時、生野の町へ入るには神崎町粟賀を経由する真弓峠と、但馬からは朝来市生野町小田和を経由する向峠がありました。それらの道がいつしか但馬街道、または生野街道と呼ばれるようになったそうです。

真弓峠は但馬と播州の国境上の要所に位置し、室町時代には領土拡大を狙う山名氏(但馬)と赤松氏(播磨)が、この峠を舞台に合戦を繰り広げました。

銀山とは切っても切れない生野峠道の歴史。現在は国道312号、播但連絡道路に輸送の流れは変わりましたが、但馬と播磨を結ぶ幹線道路として車の往来は絶えません。

協力：朝来市教育委員会
国土交通省豊岡河川国道事務所

この峠は別名追土峠ともいい、牛や馬を追い上げて行き来したことが名

路として、また、向峠は神



石垣横の高さは掘り下げられた向峠

を解消するため、明治26

協

あなたの
毎日の暮らしを応援します

但馬信用金庫

本店／豊岡市中央町17-8 TEL0796(23)1200 <http://www.tanshin.co.jp/>